

★ まちづくり ★ ニュース

★ ホームページ

<https://tokiwadai.net/>

265号

★ 2024年1月28日

常盤台の景観を守る会
常盤台まちづくり委員会

事務局 島田晴子 tel・fax 3960 - 3869

— 都心低空飛行問題について —

○ 裁判はいま

大きな変更はありません。今回は進行協議で3月7日11時から419号法廷で傍聴者無しで開かれます。

○ JAL機と海保機の事故

1月2日の大事故について日航機の乗客全員脱出は称賛されましたが、海保機は痛ましい犠牲者が出てしまいました。事故の原因については諸説それぞれもつともな所があります。

「羽田問題解決プロジェクト」は以下の見解。

- ・プライベートジェット機や海保機は羽田から他へ移すべきである。
- ・海保機は滑走路が短い、木更津、下総、入間の自衛隊基地滑走路で離発着できるし、他にも厚木等ある
- ・海外便は成田、国内便は羽田のすみ分けを破り混雑させているのは国交省である。

アトランタ・ドバイに次いで混雑度が高いと言われる羽田空港だが、成田との住み分けや管制の工夫も必要。来月国賓待遇で訪米するという岸田首相には日米地位協定の見直しと共に横田基地の返還を申し入れて欲しいですね。

○ プライベートジェット機の害

ダボスで国際会議が開催されるというが、外国からのプライベートジェット機が集中的に飛来し、そのため付近の空の大気汚染がひどいそうです。乗る人は全人口のわずか1%です。

日本でも国内の移動は空路を使わず鉄道にしましょう。世界に誇る新幹線もあるのですから。

○ ペしゃんこの屋根の模型

ときわ台駅北口の改札口に、いつからか駅舎とシルベニアの人形達が展示されるようになっていました。

今年早々、能登地方の地震による大災害に、心を痛めた模型作者Fさんは、自分に出来る事は？と考え、災害でペしゃんこに倒壊した瓦屋根を作成、展示しています。

見た人が寄付など犠牲者への思いを深めて貰いたいというメッセージもありました。

○ 裏金の行く先は？

カネで買われているのは誰？

自民党が裏金工作で大激震に見舞われています。今後の成り行きが注目されますが、政党交付金もあるのにパーティーで集金しなければならないほどカネが必要だったのでしょうか。そのカネはどこに行ったのでしょうか。受け取った人達がいるはずです。

○ 公衆電話の撤去

今月25日に常盤台公園の旧中央図書館前にあった公衆電話のボックスが取り壊され、地面もまわりの舗装と同じに工事され、すっかり跡形もなくなりました。

今までの利用者がどれほどいたか分かりませんが、時々ボックスに人影を見た気がします。

携帯が普及したのも確かで、公衆電話を使うには、使える場所を探すのに苦労します。経済的にも必要性がないのでしょうか。

ただ、携帯弱者も高齢者にまだ多いし、災害時に公衆電話だけが通じていたとのニュースもあったので、常盤台では他にどこにあるのか、一応知っておきたいと思いました。

原発と地震

元日早々から地震大国日本を驚かせた能登半島地震だが、3.11の教訓からまず心配なのは原子力発電所のことだった。とてつもない被害を生み出す原因となるからだ。

幸い直ぐ傍には福島のような原発はなかったのだが、二つの原発のことが想起された。

志賀原発は元の名は能登原子力発電所、2023年から1号機2号機とも停止中だが、地面にひび割れなどが認められたという。近くに活断層もあり、震源地がもっと近かったらと思うとぞっとする。毎日や東京新聞が過大に予想被害を報道しているとして一部のブロガーがSNSに弁明を書き込んでいるが、国民の不安はぬぐえない。

一方珠洲市に1975年頃から関西・中部・北陸の三電力会社が共同で建設予定だった珠洲原発は、たびたびの選挙では原発推進派が勝利するが、住民の反対運動は世界中で起きる原発事故に裏打ちされて強化されていった。市役所での座り込みや選挙投票結果の疑惑などを経て、ついに電力会社は2003年に原発計画の凍結を発表した。

以前から度々能登半島には地震があったが、珠洲市でも2022年に震度6弱、2023年に震度6強があり、またも震度7（珠洲市は6強）を受けたのである。なんと震源地であった。

もし珠洲市に原発が建設されていたら、もし住民が反対運動に疲れて土地買収に応じたら、あの東日本大震災のような放射能による災害が国民を襲っていたかも知れなかった。

東上線連続立体化？

十二月の区議会でも、板橋の中期の実施計画の改定素案が出されています。常盤台にかかわるところをみると、まず、中央図書館跡地については、「常盤台区民事務所の移転を前提とした計画を見直し、二四年度に活用方針を検討する」となっています。

また、「ときわ台・上板橋駅等の立体化を踏まえたまちづくりの調査・検討・協議」と書かれているのも注目されます。

十月の区議会でも、「中板橋・ときわ台・上板橋連続立体化促進議員協議会」の勉強会がひらかれたこと、常盤台地区について、板橋区は「まちづくりの機運醸成のために、まちづくり協議会をつくる」「今年度は、勉強会を準備したい」と言っています。

「立体化」には反対する人は少ないでしょうが、いま進めようとしているのは「高架化」です。三階建以上の頭の上に巨大な構造物があることを前提にした「まちづくり」などあるのでしようか？

現在進められようとしている大山駅周辺の「高架化」も、地元の多くの反対の声の中、都市計画審議会でも、採決にすることに可否が同数となり、議長採決で強引に決められたものでした。いま日本橋で、首都高速を高架から地下にする工事が行われようとしている時代に、わざわざ高架をつくらうとすることこそ時代錯誤です。

まさに常盤台の「まちづくり」の根幹にかかわることでしょう。

M・Y

常盤台公園のはなづくり

トウカエデの葉もすっかり落ちたので、ビオラの間も綺麗になりました。

時折子供が花壇に上って踏んでしまうのと、野良ネコがトイレでほじくるのと、地下で眠っているチューリップにとって、は災難が起きるのですが、Tさんが針金を曲げて柵を作ってくれました。

芝生は短く刈る機会がないまま、茶色く枯れた状態でいますが、このまま春に緑の芽が出てくるのかどうか見守っています。枯れたものは取り去らねば下から生えるのに邪魔に違いないのですが、できるだけ作業は手抜きしたいところです。

花ガラ摘みをしていると通りかかる人が時々話しかけて来ます。パンジーやビオラは種をつけないのか、それを撒いたら芽が出て苗にならないのか、聞いて来た人がいました。種は付くし、苗に育てることも可能だと思いますが、しっかりした苗に育てる場所も人手も公園にはないので、花苗を植え付けるしかありません。区から支給される花苗を中心に不足分とチューリップを補っていて、純粋にボランティア活動だと聞いて感心してくれました。資金源になるマーマレードの材料をどう調達しようか頭を悩ませています。

